

令和3年度 第4回全国健康保険協会愛知支部評議会議事概要

日 時：令和4年1月18日（火）15：00～17：00

場 所：対面&オンライン開催

出席者：石川評議員、河合評議員、坂本評議員、鈴木評議員、竹内評議員
田中評議員、宮武評議員、山口評議員（議長）（五十音順）

※鈴木評議員、田中評議員はオンラインにて参加

事務局：芦田支部長、山本企画総務部長、山西業務部長、後藤企画総務グループ長
松岡保健グループ長、上田レセプトグループ長、宮本業務第一グループ長
寺岡業務第二グループ長、佐藤企画総務グループ長補佐、小野主任
柴本主任 藤堂スタッフ

【(1) 令和4年度保険料率について】

<事業主代表>

- ・保険料率はこれでよいと思うが、インセンティブ制度の指標で一番効果があるものに特化していけば数字があがるのではないか。指標の後発医薬品については、ジェネリック切り替えシールがとても効果があると思うので、もっと周知してほしい
(事務局)

→ 愛知支部の現状として、健診・保健指導、重症化予防をしっかりとやっていくことが重要と考えている。ジェネリック切り替えシールの普及については、今後も取り組んでいく

<事業主代表>

- ・保険料率は現時点ではこれでよいと思うが、高齢者医療への拠出金や準備金については、検討が必要である

<被保険者代表>

- ・保険料率に関しては致し方ないが、若い世代に保険料率の変化に伴い自己負担も増えていくことへの意識づけが必要

<学識経験者>

- ・保険料率は賛成であるが、準備金5兆円が多いか少ないかを20年、30年という目線で見えていく必要がある。インセンティブ制度について従業員にも働きかける仕組みを考えてほしい

(事務局)

→ 今後の見通しとして最大10年までは作成しているが、20年、その先となるとできていない状況である

<学識経験者>

・保険料率については賛成である。インセンティブの効果がなかなか反映されにくい大規模支部の事情も理解しているので、今後も「何ができるか」ということを考え、引き続き取り組みを続けてほしい

<事業主代表>

・保険料率は妥当なラインと考える。インセンティブによる保険料率への反映は、大規模支部は非常に厳しい状況と思うが、大きな実績を上げている他支部の取り組みがあれば紹介いただきたい

<被保険者代表>

・保険料率はよいと思うが、保険料率の格差が増々広がっていくので、高い保険料率を払い続けている都道府県が制度的に是正される基準項目ができるとよい

<学識経験者>

・保険料率については妥当であるが、保険料の地域格差をなくすことも考えていかなければいけない

【(2) 令和4年度事業計画(案)及び保険者機能強化予算(案)について】

<被保険者代表>

・次期業務システムはどのようなものか、またどのような効果が見込めるか

(事務局)

→ 手作業を減らす審査方法でシステムを組んでいるので、審査そのものが大きく変わる予定である

<学識経験者>

・事業者の健診データ取得率とあるが、協会は健診データをすべて把握していないのか

(事務局)

→ 協会で行っている生活習慣病予防健診の健診データはあるが、それ以外の健診を受診されている方については、事業所へ健診データの提供を依頼している

<事業主代表>

- ・当社は初めて協会の生活習慣病予防健診、保健指導を利用させてもらったが、まだまだ事業所や加入者に伝わっていないので、周知して行ってほしい

<被保険者代表>

- ・K P I が対前年度以上という表現があるが理由はあるか
(事務局)

→ 現時点で当該年度の数値が確定していないので、このような表現にしている。確定次第、目標値を設定していく

<事業主代表>

- ・ジェネリック医薬品の使用割合 80%の分母を教えてください。また、ジェネリック医薬品は不祥事が続き、世間では不安感がある。安全性、安心感を考慮しつつ推進して行ってほしい
(事務局)

→ ジェネリック医薬品がある医薬品が分母となっている。ジェネリック医薬品の状況については、日本ジェネリック製薬協会から本部を通じて取り組み状況を把握している。現状、ジェネリック医薬品が不足しているようなので、それらも注視しつつ促進事業を行っていく

【(3) その他（制度改正について、業績評価について）】

<被保険者代表>

- ・傷病手当金の改正により、支給日数や法定満了日の管理が大変になると思うが、通知等は発送されるのか。また、事業所へお知らせ等はあるのか
(事務局)

→ 申請者宛に支給決定通知書に記載して送付している。事業所へは送付しない

特記事項

- ・傍聴者なし
- ・次回評議会は令和4年7月開催予定